

日常がつくる「平和」

紫原小学校 六年 江頭 奈那

「平和ってどういうことだと思いますか。」

学校で何度か聞かれたことのある言葉です。私は、国と国どうしが戦争せず、仲良くすることを平和っていうんじゃないかなと思っていました。実際に、日本はいろいろな国と今まで戦争をしてきていて、多くの人が亡くなっています。また、第二次世界大戦では、広島と長崎に原子爆弾が落とされました。戦争をしなければ、人は犠牲にならない。だから、平和とは、そういうことだと思っていました。

ところが、戦争で行われたことについて知ったことにより、私の考えが少し変わってきました。

私のお父さんは長崎出身です。夏休みには、家族で祖父母の家に行っていきます。去年、突然祖父が、

「原爆資料館に行ってみようか。」

と、言い出しました。大人はみんな賛成だったらしく、次の日、行ってみるようになりました。

翌日、まず大きな公園に先に入りました。人もけっこういました。

「広い公園だなあ。」とっていると、お父さんが側に来て、

「ここは平和公園といって、ここに原爆が落とされたんだよ。」

と教えてくれました。「原爆が落ちてきた時、ここにいた人はどうなっただろう。」と考えると、思わず上を見てしまいました。原爆は、空中で爆発したからです。その後、みんな資料館に行きました。中では、映像がたくさん流されていました。けが人であふれた部屋、道で亡くなっていく人、焼けた野原。見ているとこわくなり、早く帰りたいと思いました。戦争の現実を目の当たりにしました。

また、その年の秋、家族で鹿児島島の知覧にある、特攻平和会館に

行きました。館内には、「特攻隊」の説明がされていました。国からの指令で来た人たちは、爆弾をのせた飛行機に乗り、敵の船について落します。でも、敵の国と一緒に、自分も犠牲になる。助かった人は一人もいない、との事でした。平和会館には、特攻隊として亡くなった人の名前や遺書が展示されていました。そして、ふと、明日特攻隊として出発する人のビデオを見て、しよげきを受けました。みんな笑っていたのです。本当はすごくこわいはずなのに、みんな笑顔でした。むしろ、国のために戦える事をほこりに思っていました。

わたしは、平和とは、戦争をしないことだけじゃないと思い始めました。あたり前に来るはずだった「明日」をうばった原爆。生きるはずだった「未来」を失った特攻隊員。資料館で見た映像は、今も忘れられません。私が戦争から学んだ平和とは、「日常」です。家族がいる、ご飯が食べられる、明日来る、この私の日常が、平和です。この命を無駄にせず、毎日を一生懸命、生きたいです。